

歴史と哲学の県立熊谷図書館 = 資料案内 =

Lib. Letter

2007 summer [6~8月] 季刊

平成19年6月13日 通巻 第9号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

<http://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

だいぞうきょう

大蔵経を読む ーたとえば「大正新修大蔵経」ー

「お経」と聞いて、身近に感じる人、呪文のようだと思う人……様々だと思います。キリスト教に聖書が、イスラム教にコーランがあるように、仏教にも経典があります。熊谷図書館で所蔵する資料には、たくさんの経典があります。「お経は難しい」とお思いの方も、一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。



◇ 「大蔵経」とは何か

ブツダ(釈迦)の死後、その教えは、長い間、広い地域で継承され、はじめは口承されてきましたが、しだいに筆録され文献としての経典が成立しました。これらの経典は、ブツダが説いた教えを記録した「経」、仏教徒としての行動規範を示す「律」、経や律に対する研究・注釈をまとめた「論」の三種があり、これらを総称して「三蔵」と呼んでいます。

仏教の経典は「八万四千の法門」といわれるように膨大(ぼうだい)な量を誇っています。これら、大量の経典や論書の集成を「大蔵経(だいぞうきょう)」とも「一切経(いっさいきょう)」とも呼びます。大蔵経とは、独立した一つの経を指すのではなく、経典の総称であり、例えるなら、色々な文学書が集まった文学全集のようなものです。大蔵経は、「チベット大蔵経」「漢訳大蔵経」「パーリ大蔵経」の三種に大別され伝えられていますが、このうち「漢訳大蔵経」は、日本の仏教徒にもっとも親しまれているもので、インドからもたらされた経典をサンスクリット語(梵語)から漢語に翻訳したものです。鳩摩羅什(くまらじゅう)や玄奘(げんじょう)たちが翻訳した経典や注釈書の他にも、中国で撰述された高僧の著作(「偽経(ぎきょう)」)も含めて編纂されました。漢訳大蔵経は主として、紀元前二世紀から十世紀の頃に翻訳され、始めは筆写によって伝えられましたが、宋代以後は開版大蔵経が作られました。

日本での開版は、中世に動きがあったものの実現せず、近世に入り、天海による「寛永寺版」や鉄眼の「黄檗版(おうぼくばん)」が完成しました。明治時代以降には、『大日本校訂縮刻大蔵経』(縮刷蔵経)が刊行され、続いて『大日本校訂蔵経』(卍字蔵経)『大日本続蔵経』(続蔵経)などが作られました。その後、大正9年、高楠順次郎博士、渡辺海旭博士の監修により『大正新修大蔵経』の編纂が始まりました。これには2,920点もの典籍が取り上げられ(図像部を入れると3,283点)、質・量の上でも、とても優れています。全100巻(正篇55巻、続篇30巻、昭和法宝総目録3巻、図像部12巻)という膨大(ぼうだい)な叢書は、大正11年から昭和9

年までの歳月を費やし完成し、現在も仏教研究者だけでなく、広く人々に利用されている資料です。

◇ 図書館で所蔵する大蔵経

- 『大正新修大蔵経』 大正一切経刊行会 1924-1933 (書庫:183/タ, R183/Ta24)
- 『大正新修大蔵経』 大正新修大蔵経刊行会 1960-1979 (公開:183/タ, R183/Ta24)
- 『南伝大蔵経』 大正新修大蔵経刊行会 1970-1983 (公開:183/ナン)
- 『チベット大蔵経』 (デルゲ版) 世界聖典刊行協会 1977-1984 (書庫:183/C42)

◇ 漢文を訓読にし註をつけた資料

- 『国訳大蔵経』 国民文庫刊行会 1919-1921 (書庫:183/Ko54)
- 『国訳一切経』 (改訂) 印度撰述部 大東出版社 1986-1990 (公開:183/コク)
- 『昭和新纂国訳大蔵経』 東方書院 1928-32 (書庫:183/Sh97)
- 『昭和新纂国訳大蔵経』 (複製) 名著普及会 1976-1977 (公開:183/シ)
- 『新国訳大蔵経』 印度撰述部 大蔵出版 1994~ (公開:183/シン)

* 同タイトル内で請求記号・配架場所が違うものがあります。カウンターでお尋ねください。

◇ 『大正新修大蔵経』を開いてみよう

それでは、「色即是空 空即是色」で日本人にもよく知られている「般若心経」を例にとって『大正新修大蔵経』を見てみましょう。まず探したい経典がどの巻に収載されているかを調べます。収載巻を調べるには目録や索引類から探すことができます。『昭和法宝総目録 第1巻』(大正新修大蔵経刊行会 1991 公開:R183/シ)に「大正新修大蔵経目録」があり、それを見ると『第八巻 般若部 四』に「般若波羅蜜多心経」があります。また『大蔵経全解説大事典』は、『大正新修大蔵経』の全典籍について解説した事典で、巻末に五十音順の典籍索引があり、収載巻を調べるのにも便利です。

◇ 探している経典がどんな資料に収載されているか調べるのに役立つ資料

- 『日本仏教全集叢書資料総覧』全3冊 本の友社 1986 (公開:R183/ニ) *
- 『一切経解題辞典』 大東出版社 2002 (公開:R183.031/イツ) *
- 『総合佛教大辞典』 全3冊 法蔵館 1987(公開:R180.3/ソ) *



『大正新修大蔵経 第八巻 般若部四』より

「般若心経」「心経」とも呼ばれるこの経典は、「般若経」経典群の中のひとつです。サンスクリット本には大本と小本がありますが、日本では観自在菩薩……から始まる小本が知られています。262文字という極めて短い中に「空」の思想を簡明に述べており、人生の智慧について語られています。

◇ 現代語訳版の般若心経

- 『現代語訳 般若心経』 玄侑宗久 筑摩書房 2006(公開:183.2/ケン)
『般若心経・金剛般若経』 中村元 紀野一義/訳註 岩波書店 1991(公開:183.2/ハ)
『現代語訳 大乘仏教1 般若経典』 中村元 東京書籍 2003(公開:183/ケン) ほか

この経典をインドから持ち帰り訳したのが、『西遊記』(呉承恩/著)で名高い三蔵法師のモデルともなった玄奘(600~664年)です。玄奘は、国禁を破り、中央アジアから天竺(現在のインド)に至り、ナーランダール寺で仏教を学び、657部をという厩大(ぼうだい)な経典を長安に持ち帰りました。この旅の記録は『大唐西域記』として残されています。三蔵法師の「三蔵」とは、経・律・論の三蔵を持ち帰ったことから呼ばれた名とされており、三蔵に精通した僧に三蔵法師の尊称が贈られました。



◇ 経典についての解説・入門書

- 『新仏典解題事典』 春秋社 1968(公開:R180.3/シ)*
『大蔵経全解説大事典』 鎌田茂雄/[ほか]編 雄山閣出版 1998(公開:R183.036/タイ)*
『仏典入門事典』 大蔵経学術用語研究会/編 永田文昌堂 2001(公開:R183.031/フツ)*
『お経の話』 渡辺照宏 岩波書店 1977(書庫:183/ワ)
『経典ガイドブック』 宮本啓一 春秋社 1990(公開:183/キ)
『仏教経典の世界 総解説』 自由国民社 1985(書庫:183/フ)
『仏典の読み方』 金岡秀友 大法輪閣 1970(書庫:183/カ)
『経典 その成立と展開』 水野弘元 校成出版社 1980(書庫:183/ミ) ほか

日本文化は、仏教を抜きして語ることはできません。みなさんも大蔵経を手にとってみませんか。

■ 紹介した資料の()内は請求記号です。 * が付いている資料は館内利用となります。

🌀 新着資料案内 🌀

最近図書館に入った新しい資料をご紹介します。どうぞご利用ください。

●日本語図書

- 『太平洋戦争と新聞』 前坂俊之 講談社 2007.5 (B070.21/タイ)
『幽霊を捕まえようとした科学者たち』 デボラ・ブラム 文藝春秋 2007.5 (147/ユウ)
『四国遍路と世界の巡礼』 四国遍路と世界の巡礼研究会/編 法蔵館 2007.5 (186.918/シコ)
『白隠禅師を読む』 沖本克己 大法輪閣 2007.5 (188.82/ハク)
『声と顔の中世史』 蔵持重裕 吉川弘文館 2007.5 (210.4/ユエ)

『GHQカメラマンが撮った戦後ニッポン』ディミトリー・ボリアノ写真撮影 アーカイブス出版 2007.5
(210.762/シエ)

『ブラック・アテナ 1』マーティン・バナール 新評論 2007.5 (231/ワ)

『藤原道長 男は妻がらなり』 藤谷寿 ミネルヴァ書房 2007.5 (289.1/フシ149)

●外国語図書

『Yoshida Shigeru Last Meiji man』 * 吉田茂の伝記 [英語]

Hiroshi Nara Rowman& Littlefield 2007 (289.1Yo)

『Nobu the cookbook』 [英語]

Nobuyoshi Matsuhisa Kodansha International 2001 (596No)

『The Beatles』 [英語]

Hunter Davies Norton 1996 (764.7Be)

『Hideki Matsui』 * 「Modesty 松井秀喜つつしみ深い生き方」の英語版

Shizuka Ijuin Ballantain Books 2007 (783.7Ma)

『The samurai banner of Furin Kazan』 * 「風林火山」の英語版

Yasushi Inoue TuttlePublishing 2006 (913.6In)



●視聴覚資料

(CD) 『のだめオーケストラ LIVE!』

若林顕(ピアノ) ソニー・ミュージック・エンターテイメント 2006 (110/ノ)

『愛しい友よ: イタリア・オペラ・アリア集』

森麻季(ソプラノ) エイベックス・エンタテインメント 2006 (162/イ)

(DVD) 『コウテイペンギン: 氷の世界のスーパーアイドル』

日経ナショナルジオグラフィック社 2006 (488/コ)

『徹底解剖ツタンカーメンの死の真相』

日経ナショナルジオグラフィック社 2006 (240/テ)



* ()内が、資料の請求記号です。書架にない場合は、リクエストしてください。

図書館の言葉

「レフェラルサービス」ってなんだろう？



探している資料や情報が図書館では見つからない時、その情報を所有する機関に質問者を案内したり、質問者にかわって問い合わせを行ったりするサービスのことを「レフェラルサービス」といいます。たとえば「昔、使っていた教科書が見たい」という方には、埼玉県立総合教育センターを、「昭和20年頃の熊谷市の航空写真が見たい」という方には、埼玉県立文書館を紹介いたします。図書館では、所蔵する資料で質問に答えられない場合、県内外の様々な類縁機関を紹介し、みなさんの調べごとを支援いたします。

* 県内の類縁機関は県立図書館のホームページでも紹介しています。

お知らせ

◆6月から9月まで、平日の開館時間が変更となります。

開館時間 9:00~20:00 * 土日祝日は9:00から17:00です。

◆所蔵資料展示『見はてぬ夢を追って 徐福伝説と不老不死』を開催します。

期間 6月23日(金)~9月24日(月)まで 2階展示コーナー